

新しいエルサレムの描写

2026年10月11日

ヨハネの黙示録 21章9～27節

序：永遠の御国、天国についての情報は限られている（黙示録21～22章）

その中でも21・1～22・5まで

さらに、21・11～22・5に、新しいエルサレムの特徴が描写があるだけ

ヨハネは将来起こることを見て記すために招かれた 黙示録 4・1

そのクライマックスが天国、新しいエルサレムである

記事が少ない（しかし十分）のは、そのすばらしさを人間のことばで表現することは到底できないからである

I. 天から降って来る新しいエルサレム 9～10節

21・2ですでに啓示 ⇒ 21・9～10は再記述（同じことを詳しく述べる）

ヨハネを招いたのは、鉢のさばきの時、7つの鉢を持っていた7人の御使いの1人
御霊によって、大きな高い山に連れて行った

21・2の光景を見た

子羊の妻（花嫁）：すでに千年前に結婚

II. 新しいエルサレムの描写 21・11～22・5 11ある

11 (1)神の栄光が宿る

旧約時代：幕屋・神殿

新約 : イエス・キリスト

永遠 : 聖なる都・新しいエルサレム

12 (2)城壁

13 大きな高い城壁：神の守り

12の門

各門に御使いが配置され守っている

各門にイスラエルの12部族の名：永遠に覚えられる

救いはイスラエルを通して来る

旧約の聖徒たちもこの都の住人となる

東西南北に3つづつ

14 (3)城壁の土台石

都の永続性：この新しい都は永遠に続く

12の土台石

イエス・キリストの12使徒の名：ヨハネの名もある

新約時代の聖徒たちもこの都の住人

※教会は使徒と預言者という土台の上に建てられた ⅰペリ 2・20

15 (4)都の面積

16 最大規模の都市

17 12000スタディオン（2200メートル以上）の立方体（長さ×幅×高さ）

cf. ソロモンの神殿の至聖所は立方体 ⅰ班 6・20

長さ、幅、高さは20キュビト

永遠の至聖所

城壁の高さ cf. 12節 144ペキス≒65メートル

- 18 (5)材質
 19 今の世界では見ることもない景観
 20 城壁：碧玉 都そのもの：透明なガラスに似た純金
 21 城壁の土台石：種々、多彩な12の宝石
 12の門：それぞれ1つの大きな真珠
 都の大通り：純金（透き通ったガラスのよう）
- 22 (6)今の世界にはあるが新しい都にはないもの
 23 ①神殿（∵神と子羊が神殿）
 24 ソロモンが建てた神殿
 バビロン捕囚から帰還して建てた神殿
 患難期（前）にイスラエル人が建てる神殿
 千年王国時代の神殿
 ×新しいエルサレム
 三位一体の神が臨在 神を礼拝する定められた場所に行く必要なし
- ②太陽・月
 ∵神の栄光が照らしている
 子羊イエス・キリストが都のあかり
- ③ユダヤ人と異邦人の役割の差
 諸国の民（異邦人信者）が都の光によって生活、栄光を携えて都に来る
- (7)聖徒たちだけに解放されている
 ①門は閉じられない（∵夜がない、闇がない、犯罪がない）
 ②夜寝る必要がない（栄光のからだに変えられたから）
 ③入ることができるのは、子羊のいのちの書に名が記されている者たちだけ
 汚れ・忌まわしいこと・偽りを行う者（21・8）は入れない
 彼らはすでに白い御座のさばき（最後の審判）により、火と硫黄の池に
 投げ込まれたので、この都に紛れ込むことはない（読者に念押し）

新しいエルサレムの描写(8)～(11)は次週に見ていきます

Ⅲ. 結び

- (1)新しいエルサレムはすでに備えられて、降るのを待つばかりになっている
- (2)その景観は筆舌の限りを尽くしても表現できないすばらしさである
 ヨハネは持てることばと経験の知識と力を尽くして記したが、片鱗（十分）のみ
- (3)新しいエルサレム（永遠の御国）は今の世界とはことごとく違う次元・性質を持っている（現在の延長線上にありながら）
- (4)私たちに必要なことは、キリスト・イエスを信じる信仰によって、「子羊のいのちの書」に名が記されていること、永遠の住まいが天にすでに備えられていることを確信して、聖書によって知らされている情報によって天国を目指して歩むことである
 空想や余計な詮索はしないほうがよい